

社 會 開 題

心。民主的の共和國を開き、以て此の眞理を皇張したる也。  
 吾が如く。亞米利加の人は常に曰ふ、吾人は既に平等不可移の人權を  
 認む。而して貧乏の去あざる、犯罪の減ぜざる、工銀の低下あ  
 る、生産の過剰ある、政治の腐敗せる、此の類のもの、皆是  
 れ自然の勢に成る也。而して更らに之れを誥致するときは、  
 此の類ものは造物主の意、之れを存すべしとあすが、故に  
 存するも、吾が如く、歸す。然れども、余は信ず、此の類の弊害は、吾  
 人が獨り、其の故、文に眞理の昭然たるものとして、宣言したる  
 天賦平等不可移の眞理を認むることも、明かあざるに歸  
 成、政府の腐敗は、人權の淪沒、設棄、輕侮に由て來ることを、宜  
 言したる、此の類の淪沒、設棄、輕侮に由て來ることを、宜

百六十六

社 會 開 題

眞理、國庫の定乏、政府の腐敗、労働社會禽獸に均しき、自願、自  
 辱、貴族の敗徳、横行は總て是れ天賦平等不可限人權の淪沒  
 に歸すべし、余が如く、今日米國と共に、至文明世界を耕して、之  
 我を感嘆する社會的、政治的の問題は、總て是れ天賦平等不可  
 限人權の淪沒に歸せざる可からず。  
 吾が請ふ、詳かに之れを論ぜん。生命、自由、幸福、追求の平等、天  
 賦不可移の權、神は各人か他の同等權を侵さざる限りは、一  
 家生計の爲め、其の能力を自由に使用するの權をも含有  
 するにあらざるや、他人の同等權を侵さざる限りは、各人富を  
 造り、貯へ、享くるの權を含有するにあらざるや、各人は強て、其  
 の意にあらざるの勞に服せしめらるゝことあき、其の權、其の  
 得る所を他人に割與せざるの權、其の勞力、所得を他人に強  
 取せらるゝことあき、其の權をも含有するにあらざるや、是れ論

人の權

百六十七



社 會 問 題

予。勿。き。の。み。生。命。自。由。の。同。權。を。認。め。て。而。し。て。所。有。の。權。
 一。勞。働。の。權。勞。働。の。結。果。を。獲。得。す。る。の。全。權。を。殺。滅。す。る。
 は。是。れ。生。命。自。由。の。權。を。有。名。無。實。に。す。る。も。の。あ。る。を。以。て。
 り。然。れ。ど。も。吾。人。の。爲。す。所。は。反。て。是。の。如。し。吾。が。所。謂。同。等。天。賦。
 の。權。を。認。む。る。と。謂。ふ。は。其。の。人。民。の。大。數。に。於。け。る。有。名。無。實。
 あり。の。み。社。會。益。々。逼。塞。し。て。人。民。の。過。半。數。に。於。け。る。此。の。權。
 理。は。益。々。有。名。無。實。と。あ。る。何。と。あ。れ。ば。則。ち。吾。が。制。度。は。人。に
 勞。働。の。權。勞。働。の。結。果。を。獲。得。す。る。の。權。を。獲。得。す。る。に。
 此。の。第。一。人。權。の。要。諦。は。一。方。に。貧。乏。を。起。し。他。方。に。豪。富。を。起。
 じ。而。し。て。富。の。分。配。の。均。し。か。ら。さ。る。よ。り。消。耗。敗。徳。腐。敗。の。生。
 ず。る。は。容。易。に。知。る。を。得。べき。あり。
 余。は。今。ま。文。明。世。界。全。般。の。形。勢。を。概。論。す。る。も。の。あ。り。と。雖。も

頁八十九

社 會 問 題

試。み。に。他。の。一。邦。土。め。と。を。評。論。す。べ。し。蓋。し。人。自。ら。自。己。の。
 過。を。見。る。と。詳。か。あ。ら。ず。し。て。他。人。の。過。を。見。る。と。詳。あ。る。も。
 の。あ。る。を。以。て。あ。り。英。國。は。我。に。言。語。制。度。を。傳。ふ。の。國。あり。其。
 の。政。權。を。認。む。る。と。の。公。然。あ。る。は。我。に。及。ば。さ。る。と。雖。し。
 と。雖。も。工。業。上。の。自。由。は。敢。て。我。邦。を。軒。輊。す。る。所。あ。る。を。見。
 ず。而。か。も。或。る。點。に。於。て。は。我。に。優。る。所。あり。何。と。あ。れ。ば。
 則。ち。英。國。は。未。だ。全。く。自。由。貿。易。を。行。は。さ。る。も。我。邦。の。富。を。騙。
 取。し。去。る。の。『保。護』は。既。に。之。れ。を。絶。て。ば。あり。而。し。て。英。國。の。民。
 多。く。は。其。の。自。由。に。安。ん。じ。而。し。て。自。ら。之。れ。を。矜。誇。す。憐。れ。む。
 べき。哉。彼。等。は。聞。き。習。ふ。こ。と。の。久。し。き。自。ら。以。て。世。界。中。最。も。
 自。由。の。民。と。あ。し。而。し。て。『ブ。リ。ト。ン』人。は。奴。隸。と。あ。る。あ。し。の。句。
 を。謳。歌。し。以。爲。ら。く。英。國。の。空。氣。は。永。く。奴。隸。の。呼。吸。せ。ざ。る。所。
 あり。と。



社 會 問 題

「英國自由の民」は「英國自由の民」の子孫にして或はウイルツ  
 藩(州の義)にあり、或はデヴチン藩に在り。或はサモーセツ  
 藩にあり。其の來歴を問へば其の耕すの地は其の祖先が往  
 古サクソン時代より耕し來りたるの地あり。彼れ「英國自由  
 の民」は丁年に滿つれば例に由て婦を娶るあり。一人前の賦  
 とあり、他人と肩を比べて造物主が勞して生活すべしと命  
 じたる世界に介立するあり。彼れ既に自ら需用あり。例に依  
 て兒女を生む。而して其の需用は更らに多し。然れども、彼れ  
 脳髓に筋骨に天賦の力あり。以て天稟の倉庫(土地の義)に頼  
 て此の需用を満足せしむ。彼れは堀り、鋤き、蒔き、刈るを知る。  
 而して豊饒ある土地は萬古依然として在り。勞して富を得  
 べし。雨露は降り。日光は照らし。地球の廻轉に隨ふて冬去り  
 て春來り、春去りて夏來る、其の生計を營み、其の勞働を富に

社 會 問 題

化し。其の富を保持して一家數口の衣食、快樂に資す。是れ「英  
 國自由の民」が有すべき頭等、第一の權理あり。彼れ他人の得  
 る所を求むるの權あり。然れども、他人も亦た彼れが得る所  
 を求むるの權あり。彼れ強て他人をして己れの爲めに勞せ  
 しむるの權あり。然れども、他人も亦た強て彼をして己の爲  
 めに勞せしむるの權あり。己の力を出し、己の勞働より生ず  
 るものを私するの權は自明自白ある天賦の權にして、或は  
 慢侮の甚しき天の人を生ずるや、他人の爲めに働かじむる  
 ことありと謂ふもの、外は之れを主義の上に争ふものあ  
 り。「英國自由の民」に此の頭等第一の權理を全ふせしめは彼  
 れ則ち裕かに一家數口を給するを得るあり。例に依て其の  
 勞働は富を生ず。之れを以て他人の生したる富と互ひに其  
 の欲する所に隨ふて交易せば、一家數口有形の快樂に供す



社 會 問 題

るに足る。而して非常の事變あるにあらざれば彼れ能く其の子孫を養育し、多少の餘財を貯蓄して老後の計をなす。老衰、事に堪へざるに至りて憐れに入に乞ふことありて、『在天我父』の攝收するを待つのみ。

然れども『英國自由の民』の實況は如何。實際上『英國自由の民』は渾然此の勞するの權、勞して得るの權を滅没して、法律上奴隸の民たるに異ならず。其の自ら勞して他人を富ましむるの情は英國の法律が彼れが身を一主人の所有たらしめたるに異ならず。邦土の法は彼れを奴隸ありと公布せず。乃ち公然之れを自由の民と公布す——自ら勞するの自由あり、自ら勞じて其の得る所を享くの自由ありと布告す。然れども、人に其の勞を致す所のものあくんば勞する能はざるものと猶ほ食ふ所のものあくんば食ふ能はざるがごとし。人

社 會 問 題

は虚無の中より物を造るの力あり。是れ造化が人の爲めに會て考畫せざる所あり。造化の命に曰く、『勞せざれば飢へん』と。而して吾人が勞を致す所のものは悉く之れを給與せり。衣食住等凡そ吾人の願望に酬ゆる所以のもの、吾人が稱して富と謂ふものは皆悉く勞力を以て産出すべし。然れども、其の勞を致す所以の未製料は一に之れを土地に取らざる可からず。

太西洋裏渺茫無涯の波上に人を放ち、而して之れに告げ、汝に自由あり。歩して岸頭に到れと曰ふの酷あるを知らば、土地既に領占せられて悉く他人の有らざるはあきの地に人を置き、而して之れに告げ、汝は自由の民あり。勞するの自由、勞して其の得る所を享く。英國人民の境遇は實に此の如し。

人の權理



身は巖の上に懸り、後に利刀を持するの人もあり。將に其の係を絶たんとす。英國人民の自由あること斯くの如し。沙漠を行くの人あり。渴すること甚たし。往て清泉の湧く處に到れば、高牆之れを繞らし。甲兵之れを衛り。曰く、我が欲する所に従ふて自由契約するにあらざれば、水を得ず。英國人民の自由あること此の如し。在昔サッソンの祖先の時に在るとは英國の民、丁年とありて、婦を娶らば其の父宅地と苗代を割ひて之れに與ふ。而して共同の村地あり。共同の村林あり。共同の牧場あり。耒耜を採て之れを耕耘し。斧鉞を携へて之れを採薪し。弓矢を提げて之れを獵獲し。牛羊を放て之れを牧養す。更らに復た恤ふる所なきあり。チャーター家の起るや土地專領の端緒漸く開けたり。雖ども爾後數百年の間は尙ほ土地は天下萬民の爲めに存するものに少

數者の爲めに存するものにあらざるとの主義を淪没するに至らざりし。

註 長島は紐育の附近にありて、英人最初の殖民地あり。

英國古代に於ける土地共有制の遺存するを見るあり。紐育は原と阿蘭陀の殖民地あり、後に英國の兼併する處たり。故に其制を存せず、而して今や漸く其の共有制の消滅せんとするの勢あり。長島の東端モントーン半島の如き廣濶、恰好の地にして他日歐米汽船輻湊の場たらんとするものは地價の騰貴すべきを以て機を見るに敏ある紐育の資財家は手を盡して此の共有地を買ひ、以て一人の所有とあせり。

然れども、英國の自由の民が指して以て我が有とあすべきもの今や立錐の地だも之れあることあし。其の祖先が俱に



社 會 問 題

耕。耘。し。て。其。の。收。穫。を。平。等。に。分。配。し。た。る。田。畝。は。今。や。『殿。様』の。所。有。地。と。あ。れ。り。而。か。も。地。料。は。非。常。に。高。く。し。て。大。農。者。に。あ。ら。ざ。れ。ば。得。て。之。れ。を。借。ら。ざ。る。あ。り。而。し。て。大。農。者。の。之。れ。を。借。る。も。の。資。本。を。投。じ。て。之。れ。が。當。然。の。利。潤。を。得。ん。と。欲。せ。ば。大。ひ。に。力。役。者。の。『頭。を。刎。ね。ざ。る。可。か。ら。ず。』昔。日。の。村。林。に。は。高。壁。を。築。ひ。て。之。れ。を。繞。ら。し。壁。上。に。玻。璃。の。碎。片。を。植。へ。て。鬩。立。せ。り。役。人。あ。り。之。を。守。れ。り。番。人。あ。り。銃。を。肩。に。し。て。之。れ。を。巡。回。せ。り。猥。に。入。る。も。の。は。捕。へ。て。之。れ。を。獄。に。繋。く。古。の。共。有。牧。場。は。『殿。様』の。莊。園。と。あ。り。其。の。畜。は。肥。脂。あ。り。麋。鹿。あ。り。俯。し。て。蕪。草。を。食。ふ。彼。の。松。林。を。穿。ち。溪。流。に。沿。ふ。の。小。徑。も。亦。た。牆。壁。に。塞。か。れ。て。通。ず。可。か。ら。ざ。る。あ。り。  
會。て。奴。隸。た。ら。ず。と。矜。驕。せ。る。『英。國。自。由。の。民』、ブ。リ。ト。ン。民。族。も。脚。を。立。つ。る。の。地。あ。き。能。は。ず。彼。等。は。少。あ。く。も。環。堵。の。地。を。地。

社 會 問 題

球。の。上。に。覓。め。之。れ。を。『吾。が。廬』と。あ。し。て。以。て。妻。子。安。堵。の。所。と。あ。さ。い。る。可。か。ら。ず。然。れ。ど。も。彼。等。が。郷。聚。里。中。に。在。て。人。の。許。可。を。待。た。ず。し。て。直。ち。に。用。ゆ。る。こ。と。を。得。る。の。地。は。大。道。と。通。街。と。の。み。而。か。も。彼。等。は。大。道。通。街。に。横。臥。す。る。こ。と。を。得。ず。况。ん。や。之。れ。が。傍。側。に。其。の。廬。を。構。ふ。る。を。や。故。に。『英。國。自。由。の。民』は。毎。月。若。干。の。徭。役。を。地。主。に。献。じ。て。棲。息。の。地。を。郷。里。に。求。む。換。言。せ。ば。彼。等。は。第。三。人。に。勞。力。若。く。は。勞。力。の。所。産。を。賣。り。地。球。の。一。部。を。所。持。す。る。人。に。向。て。之。れ。に。棲。息。す。る。の。免。許。料。を。拂。ふ。故。に。『英。國。自。由。の。民』は。勞。力。の。幾。分。を。割。い。て。先。づ。地。球。に。棲。息。す。る。の。免。許。を。受。け。然。る。後。ち。更。ら。に。勞。働。し。て。衣。食。其。他。の。も。の。を。求。め。ざ。る。可。か。ら。ず。然。れ。ど。も。勞。働。す。る。に。は。土。地。あ。か。る。べ。か。ら。ず。し。て。彼。等。に。は。是。れ。あ。る。こ。と。あ。し。故。に。彼。等。は。止。む。を。得。ざ。る。に。出。で。、土。地。を。所。有。す。る。者。に。其。の。勞。力。を。致。



社 會 問 題

して其の與ふる所の賃銀に甘ぜざる可からず。而して其の與ふる所の賃金は頗ぶる低卑にして、粗衣粗食だも尙ほ給するに足らず。——其の労働の所産は地主之れを專領し、力役者の得る所は刻薄ある奴隸主人が其の奴隸に與ふるの給養に若かず。乃ち纒かに餓死、凍死せざるを得るのみ。茅屋は壞れて雨露を防がず。破窓、朽床、坐臥する所あし。彼等は星を戴て出で、月を蹈んで歸る、其の妻も亦た然り。其の兒女の漸く行歩に習ふや、之れを野に出して草を芟り、鳥を追はしめ、若くは地主の使役に供して其の土地に棲息し、其の土地に勞作する大恩に報はざる可からず。彼等は屢々病み、往々にして死す。而して其の恃む所の者は貧民院にあらざれば、デントンが所謂『郷中の萬能神』あるのみ。——而して此の郷中の萬能神は果して何物ぞや。即ち斯る惘然ある家族よ

社 會 問 題

り労働の所産を取收して大富を積み、而して僅かに餘財を出して小惠を施す所の郷中の地主に外あらず。彼れ若し良富家を敬せず。『殿様』御夫人『御家來』の通御するに際して帽を脱して、之れに禮せず。若くは上流社會の人が下等社會に適當ありとするの謙讓を以て其の子弟に教へず。若し林中の桃を盗み、園中の兎を絡し、池中の魚を釣るの嫌あれば、忽ち其の職を奪はれて頼る所あく、遂に貧院に投ぜざる可からず。然らずんば餓死するの外あきあり。英國自由の民は未だ老年に及ばずして早く己に其の腰を彎月形にす。其妻は其の時にあらずして其の色、既に衰ふ。其の女子の幸にして天折せざるもの——例に仍て他家に嫁するも嘗て其の苦楚の境界を脱せず。然らざるものは良富家の子弟に欺拐せられ、僅かに數圓を懐にして都會に出て、娼樓、貧院、牢獄に入



社 會 問 題

り、數年あらずして死す。其の男子の生長するや、愚昧あること禽獸に異あらず。其の得る所を以て自ら給するに足らず。以て父母を養ふあじ。老後父母の頼る所は獨り貧院あるのみ。

而して貧院あるものは奴隸人の道傍に餓死するを有土の耻とあして之れを繫留する所あり。故に之れに入れば其の妻に離れ、其の子に別れて寂聞無聊の間に日月を迎送す。今ま夫れ夫婦は法律を以て定めたる教會の牧師か「神既に之れを結ぶ、人を以て之を割かず」と規祝して、而して結縁したる者あり。然るを、之れを類似の監獄に繫ぎ、零丁、孤獨にして死の至るを待たしむ。何ぞ其の事の甚酷あるや。

「英國自由民」の情態は既に斯の如し。而かも尙ほ之を以て奴隸人に優れりとあすを得る歎。然れども、是れ尙ほ英國農夫

社 會 問 題

の眞書圖にあらず。余は此の悲惨、屈辱の地にある階級の愚昧、敗行、壞徳を描かざるを以てあり。其の衣食住、其の樂事、安慰、其の道義を問へば英國今日の農夫は概して米國南方の奴隸に劣れり。米國南方の奴隸は其の身體強壯にして、快樂多し。強壯、篤實ある一黒奴の價、百弗あるの間は我慾、殘忍ある奴隸主人と雖ども「英國自由民」の多數か衣食するが如き衣食を以て其の黒奴に給せざるべし。而かも英國の白哲奴隸は賣買上半錢の値あり。唯だ勞力を擒縱、總攬するの土地に賣買上の値あり。一週間に九「シリング」乃至十二「シリング」を出せば以て大人の勞力を買ふを得べし——即ち奴隸を養ふて其の代價を下落せしめざるの費よりも少あじ。又た一週間に六「ペンス」を出さば以て童子の勞力を買ふを得べし。而して其の瘦羸事に耐へざるに至れば之れを其



社 會 問 題

の倒死するに任じ。若くは之れを貧民院に入らしむ。  
 人或は曰く、奴隸は劣等の人種ありと。焉んぞ知らん、英國に  
 碩學、鴻儒、詩人、政治家、商人、發明家を與へて、環海孤島の干城  
 とあし。獅章の旗を全世界に翻へしたるは白哲奴隸あるこ  
 とを。而して此の白哲奴隸か無知、蒙昧、自屈、自辱の境に陥り、  
 奴隸の生を送りて非人の死をあす所以のものは何ぞや。唯  
 だ其の天賦權を奪はるゝが故のみ。  
 力役者の茅屋には人の填塞、蠢動すること豕の如し。而して  
 其の傍、巍々乎として大厦、高樓の聳ゆるあり。之れを繞らす  
 に大園、廣庭を以てす。是れデニソンか所謂る地方「萬能神」の  
 邸宅にして、卑屈の英人之れを仰ひて畏敬す。彼等は一事を  
 もあさず——數百年の間、其の祖先が一事をもあさゝるを  
 誇れり。彼等は極めて力役する者を輕侮す。甚しきは祖父の

社 會 問 題

力役者たりし者を輕侮す。彼等は奢侈を極む。彼等に本邸あ  
 り。別荘あり。馬あり。車あり。仕着の僕婢あり。畫舫あり。獵犬あ  
 り。彼等は千金を投じて文學、教育、紀行の書を求む。而して尙  
 ほ餘財あり。或は鐵道を買ひ、或は公債の募集に應じ。或は遠  
 く米國に地所を購ふ。然れども、彼等は自ら微塵の財をも産  
 出することあし。彼等が財を得るは土地に主たるが故のみ。  
 財を作るの人、其財を以て之れに與ふるが故のみ。  
 明かに是れ富の分配、公平あらざるの第一原因あり。是を以  
 て、英國には甚酷的に奢侈を極むる者の傍に怖るべく、驚く  
 べきの貧乏あるを致せり。而して其の都會に於けるは田舎  
 に於けるよりも甚し。明かに是れ勞力が無用の贅物たるが  
 如く。力役者の工銀低落して糊口に窮するに至る所以あり。  
 彼等は土地に對する天賦の權理を奪はれ。天與の土地に在



社 會 問 題

て却て之れが侵入者を以て遇せられ、幾かに禽獸的の生存をまさんとして當に競争すべからざるに競争す。是を以て製造業を以て立つ市府の裏道、路次に棲息する者は悲惨、屈辱の極、其の神に像りて造りたる人間を以て禽獸よりも卑陋あるに至れり。  
然り而して英國にも亦た同一の事情よみして同一の不平等を起さんとす。米人は米人たるの市民權を得るも米人たるの土地所有權を得ず。必要の人權——生命、自由、幸福、追求の米人を去ること英人を去るが如し。米國豈に英國と同様の結果を生ぜざらんや。

社 會 問 題

第十一章 塵芥を積載し去る

米國の海濱に向て愈々多量に注ぎ來る人間の黒潮は孰れの點より見るも大ひに留心、注意するを要す。當今の顯象にして吾人の注意を促がす者は今日の情態遠からずして一變せんとするの一事あり。本年来米國に向ふの移住は特に吾人の注意を要す。大西洋を航する蒸船會社は英國政府と特約を結び愛蘭東岸處々の小港に船を寄せ、老若、男女を載せて大西洋を過ぎり、囊中七八弗の金を以て新世界に活路を開かんとするもの徒を紐育、ホストンの埠頭に棄つ。  
一國の力は民人に在り。一國の富強にして其の威、萬國に震ふ所以の者は民人の力あり。然るに文明ある基督教の政府あり。恰も紐育府が其の塵芥を積載し去りて之れを大西洋中に投棄するが如く、自國の民を塵芥とあして、之れを積載

塵芥を積載し去る



爾し來りて他の大陸の上に投棄す。其の投棄せらるゝの民は  
 一國の贅物にはあらざるあり。彼等は米國に來りて借家の  
 裏に填塞し、腐敗せる政治に薰陶せられ、且つ習はざるの誘  
 惑に接するが故に或は不良の民とあるものありと雖ども、  
 本國に在ては、彼等は、温良、黽勉にして而かも或る點に於て  
 は有徳の民あり。唯だ其の貧困の間に處して識心上及び政  
 治上の教育に乏しく爲めに不羈、獨立の生計を立つる能は  
 ざるが故に其の徳の不撓、不屈ある能はざるのみ。愛蘭尙書  
 ツレベリアンは衆議院に於て公言して曰く、彼等は身體強  
 壯、品行方正にして生計を營むに適すと。而かも政府が公費  
 を以て之れを積載し去ること紐育府が其の塵芥を積載し  
 去るが如し。豈に長大息の至あらずや。  
 ツレベリアン尙書は曰く、彼等は生計を營むに適すと。然れ

ども、彼等は本國に在ては豊年、滿作、商賈繁昌を謳ふの時に  
 際するも尙ほ纒かに粗衣、粗食を以て自ら給するに過ぎず。  
 而して一朝少しく事變の生ずるや、租税を募り、義捐金を集  
 め、以て之を救恤せざるべからず。誠に英政府の煩累あり。今  
 ま安價に此の煩累を除かんと欲せば官費を以て之れを外  
 國に積載、投棄するに若かざるあり。  
 何故に斯の如き乎。何故に生計を營むに適するの人民が自  
 國に在て生計を立つる能はざる乎。嗚呼、他故なきあり。天の  
 人類に賦與する所にして獨立の檄文を以て喚發したる平  
 等不可移の天賦人權の淪没するに歸すべきのみ。英國の政  
 治家を煩殺せんとする愛蘭の饑饉、貧乏、失政、紛擾は總て是  
 れ一千七百八十九年佛國の國民會が國家の患害、政府腐敗  
 の原因ありと公言したる人權の侮蔑より生ずるあり。愛蘭

塵芥を積載し去る



の農夫は飢へざらんと欲せば、乞はざる可からず。乞はざらんと欲せば、移住せざるべからず。治者は之れを以て人間の廉價をもし、職載し去りて處を擇ばず、之れを投棄す。愛蘭農夫も亦た其の入権を亡失して、奴隷の生を送り、非人の死を待たず。彼等は自ら勞して自ら富み、自ら貯へて自ら享くるの可なり。移住を許されたるを以てあり。此の人民を職載し去るの國に、自費の移住、官費の移住、多量に於けるも、更に數多の人民を安樂に給養するを得べし。即ち生計を營むに、適するの人民をして、價を飢餓を訴へざらむるを得べし。其の然るを得ざる所、其のものは唯だ勞働の機會の自ら存する者を塞ぎ、且つ法律が勞投者の所得を奪ふの權を一部の民に假したるか故のみ。英國政府が大西洋を渡し、七八弗の金を添へて、我が埠

題 問 會 社

頭に投棄するの民、多くは屈強の男子あり。其をして勞働せしめば、富を産し、安樂ある生活を立てるを得べし。而して彼等にして渡海せんと欲せば、官費を待たずして自ら渡海し、上陸の後直ちに安樂ある活計を營むに足るの資金あらん。其の囊中一錢あきは生まるゝの日より去るの日まで、間斷なく、其の勞働の結果を奪はれたるか故のみ。

題 問 會 社

一年前余は官費移住民を出だすの地、愛蘭を漫遊したり。余は實に一驚を吃したり。彼のコンノート地方と雖も、人口は稀薄ありし。余は實に人口過殖を以て有名ある愛蘭の斯の如くあるを恠めり。滿目の土地皆を豊饒にして、六畜は肥へたり。而して綿羊の毛は白ふして雪を欺むき、朝々に浴し、暮々に梳りたる者の如し。昔は此の地、耕耘せられて人煙は稠密ありし。今や破壁、殘礎の間、牧人の廬を結ぶを見るのみ。而

墾業を積載し去る







社 會 問 題

して牧人生計の疎ある、テラ、デル、フューゴの土蕃と雖ども之を羨まざるべし。此の地の地主は、倫敦、巴里に住居して嘗て其の領地を巡視したるとあり。地主は人類を養ふよりは畜類を養ふの利あるを知り。畜類を迎へて人類を逐へり。逐ふて之れを沼澤、巖岩、山嶽、海濱に移せり。人煙の稠密あるは此の處あり。天が人類を棲息せしめんか爲めに造りたる地に人類の群居するを見ざるあり。沃土は畜類に附與し。瘦土は人類に附與す。而かも其の地料を忘らば瘦土と雖ども尙ほ保つ能はざるあり。土人は礫礫の地を指して漫に田畝と謂ふ。聞く者噴飯せざるはあり。其の枯乾、耕耘に耐へざることは素と廣路フット、ウェイの地面の如し。彼等は非常の勞を以て礫石を拾ふて、之れを除けり。然れども、岩石は依然として在り。鋤を加ふ可からず。彼等は沼澤を伐り、海草を海濱に採り。遂

く擔ひ來りて之れを肥料とあり。漸にして少しく殖産あるを得たるあり。

社 會 問 題

斯る岩石と濕地——之れを地所と謂ふは諛辭あり——は非常の勞を以て漸く生育あるに至りたり。而して農夫は此の地主に向て毎「エーッル」に對して五弗乃至二十弗の地料を納め、別に又た大西洋の波濤が自から海濱に寄せ來るの海草を肥料として採收するの代。沼澤より燃料として柴薪を採るの代を拂はざる可からず。斯る人民か土地の爲めに出す所は土地の爲めに入るよりも多し。彼等は土地を用ゆるの料を出すのみならず。大洋を用ひ。空氣を用ゆるの料をも出さざる可からず。彼等は婦女か海濱より市場へ、市場より海濱へ魚籃を運びながら靴足袋を編みて儲けたる小使金、毎秋英國に渡りたる男子か割禾者とありて儲けたる錢、

肥料を積載し去る



社 會 問 題

亞米利加に渡りたる夫若くは子弟か送り來る錢を以て地料を拂ひ衣食に給するあり。彼等は痛く勉め大ひに勞す。而して其の貧困の情は彼が如く憐むべくして。豊年、滿作の、時彼等は辛ふして餓死線の上にある。年凶にして馬鈴薯の荒蕪に就くや、彼等は海草を喰ふ。然らざれば、彼等は備荒貯蓄金の救恤を仰ぎ。若しくは慈善家の救助を受く。彼等は幸ひにして雛雞七八羽、豕一頭の富を得るも其の之れを喰ふことを欲せざるは猶ほヴァンダービルドか五万弗の馬を喰ふことを欲せざるがごとし。彼等は之れを賣りて地料の不足を補はんとなす。肥へたる大松魚あり。時に内海に入り來る彼等は之れを漁す。然れども、魚背に「萬能神の自筆を以て在倫敦某侯、某伯」の銘あるが如く。彼等は之れを其の口に上さざるあり。村中に大商店あり。數斤の砂糖、一匁半宛に小割せる紙包の茶、少量の麥粉、二三領の赤衣、一二反の粗布、七八丈の「フランネル」三四貫目の綿、二三十個の「ボタン」五六束の絲、七八包の煙草を店頭に列せり。別に五六壇の村醪あり。然れども深く藏して示さざるあり。蓋し税吏の來りて之れを押し、併せて其の店主を拘引し去らんことを恐るゝあり。此の如くあるは是れ〇〇をして生活せしめざる可からざるが故あり。海陸軍の支へざる可からざるが故あり。マブリン、ヘルフワスト、コーンの醸造家をして課税品を專賣して巨利を得せしめ、彼等をして寺院を建て、寺院を再建するの名譽を得せしめざる可からざるが故あり。而して人民は赤貧洗ふが如し。昨年度に在て公賣處分を監督したる縣知事は公言して曰く、一百戸の公賣處分を以て得る所、僅かに十五弗に過ぎずと。



然れども地主の生計は大ひに之と異あり。此の地方を過ぎり、結構、王宮を欺かんとするは地主の邸宅にして、繞らすに高壁を以てす。纒かに其の門に入れば人をして別天地の思あらしむ。其の芝生は廣濶にして、絨氈を敷き渡したるが如く、百花は庭上に爛熳覆翳たり。其の玄關に通ずるの道は大樹、枝を交へて深く綠門形をまじ。大ある馬厩あり、犬舎あり、奢侈、遊逸の具、一として備はらざるはあじ。彼等は既に此の贅澤ある邸宅あり。以て足れりとあさず、出で、倫敦若くは巴里に遊び、瑞西、以多利に勝景を探り、地中海濱に風月を弄し、又た時に米國觀光の遊をあす。其の米國に遊ぶや、未墾の福地を相して之れに資本を投じ、英、愛、兩國に於ける領地の如く地價騰貴の日あるを待てり。彼等は一事業をも爲さざるあり。彼等の歳入は勞せずして自ら來る。彼等の事業は唯

## 社 會 問 題

## 社 會 問 題

だ之れを消費するにあるのみ。或は千金を投じて名書を買ひ。或は万金を擲て稀有の古書を買ひ。賭博に、競馬に、番船に陋醜ある處に千万金を投じて尙ほ其の財の散ぜざるを恐る。彼等の爲めに愛蘭人より地料を徴收するの留守居と雖ども尙ほ奢侈を極めり。而して此等の財は皆あ是れ今日米國の埠頭に投棄せらるゝ者、の儲より出づるあり。——投棄せらるゝ民の儲、若くは在米の親戚が彼等に送りたる錢、若くは慈善者の救恤金より出づるあり。愛蘭に巡查、兵隊、探偵、密告の充満するは斯る攘奪の制度を保持せんが爲めあり。而して大英國の精神たり、骨髄たるの民は却て英政府の困難とあり、衰弱とあり、危険とある。經濟上より論ずれば愛蘭地主の不用あるは猶ほ貪婪飽あき猛獸のごとし——彼等是一群の豺狼あり。一隊の野象あり、昔



## 社 會 問 題

し聖デヨウチが退治したりと傳ふる大龍あり。似等は一物を  
 をも産せずして唯だ消耗し、破壊す。而して其の破壊するは  
 消耗するよりも多し。何とあれバ則ち人民に奪ひ人民を壓  
 するの武斷的巡查と赤衣兵は愛蘭を一變して陣營とあし  
 たるのみならず。愛蘭の生産者は之れが攘奪に逢ふて其の  
 資本を失ひ。忽ちにして貧乏、無智、文盲に陥れり。而して應  
 じに産出すべく又た將さに産出せんとするの富は勞者に其  
 の儲くる所を取らしめず。富を造る者に其の富を得せしめ  
 ざるが故に産出せざるを以てあり。政治家にして苟くも思  
 慮ある者は一國の中より除去すべきは消耗者、破壊者にし  
 て富の産出者にあらざるを曉るべきあり。  
 然れども、英國政治家の考ふる所は之れに反せり。此等不用  
 ある愛蘭の男女、此等塵芥の如き愛蘭の老若——愛蘭の地

## 社 會 問 題

主が用ゆる所なきが故に不用物とあり。塵芥とありたる老  
 若、男女は吾が埠頭に投棄せられ。其の『自由の郷、勇者の里』に  
 達する日は或は七月四日あらん。此の日に當りて彼等は獨  
 立の檄文を朗讀し。不可移權を主張し。拍手喝采の聲、山河に  
 震ふを聞かん。彼等は此の地に上陸し嘗て本國に在て彼等  
 を奴隸とあし。塵芥とあしたる制度より脱したる歎。否。彼  
 等は未だ勞働の結果を奪ひたる舊地主の支配を免ぬかれ  
 ざるあり。

何とあれバ則ち吾人は英、蘇、愛に不用とありたる小作人を  
 容れたるのみならず。其の地主をも容れたればあり。移住民  
 の來ると同時に英國の地主、資本家が米國に土地を專領す  
 るの運動を開始するを見ればあり。英國の大地主は已に米  
 國に廣大なる領地を有せり。而して米國の土地は彼等が増



社 會 問 題

々好んで資本を投ずる所とあれり。此等『殷様』御前の領地は未だ本國に於けるが如く高價ならずと雖ども、此の人口自然の蕃殖に加ふるに移住の民を以てせば地價騰貴の日蓋し遠きにあらざるあり。

英、蘇、愛に於ける不用の民を送り來ること一人あれば米國の地價、地料の騰貴すること一層にして數人あれば數層あらん。故に移住民の來る愈々多ければ歐米兩大陸に在るの地主は喜色欣々たるあり。彼等は災禍に罹るの時、其の救恤を求むるの民を本國より出し、且つ以て不平、不滿の傳播を絶ちたると同時に其の米國に入りて領地の價格、漸く高貴に赴くを喜べり。

斯の如くんば小作人は嘗て本國に在て、彼が如く久しく勞働して其の歳入を増大したるの地主に向ひ此の米國に於

社 會 問 題

て再び地料を納むるに至ることあらん。兎に角、小作人の米國に來るは土地の需用を増す所以あるが故に地主は合衆國中の或る者を強ひ亞米利加の土地に棲息するの免許料として其の所得の幾分を割與せしむるに至る。舊世界の地主が新世界の土地を買ふは此の見込あるが爲めのみ。地主は自ら此の土地に住するを欲せず。亞米利加に特權を有するの階級が今日既に傲はんとするが如く彼等は好んで倫敦、巴里に住むあり。彼等は此の土地に働くを欲せず。又た働かんと擬せざるあり。彼等が欲する所のものは人口の増加するに随ひ土地の所有權に據り他人が儲くる所の幾分を請求するの權力を得んと欲するに外ならず。而して現今の形勢に依れば彼等が愛蘭の領地に於てするよりも巨額の歳入を米國の領地より得るは蓋し一二代を待たずして

塵芥を積載し去る



僅かに數年の後に在るべきあり。語を換へて之を言へば、將來彼等が實際上亞米利加人を所有するの多きは今日彼等が愛蘭人を所有するの多きよりも多かるべし。

愛蘭の移住民は米國に來るも嘗て其の本國に在て少數人民の爲に多數人民を貧乏にし、非人にしたるの制度を脱する能はずして、却て愛蘭に於けるより一層甚しく其の制度の擴張し居るを見るあり。吾人米國の民は毎年七月四日に獨立の檄文を朗讀し、大喝采を發し、大瞻禮を擧ぐるに拘はらず。各人天賦の不可移權——之を失すれば、以て富を産出すべからず。以て生活すべからざる天然力（オチチュラメント）を同等に使用するの權——を認めざることを愛蘭に於けるが如し。人の説く所を聞けば愛蘭の地主制度は特種の地主制度若くは特に有害ある地主制度あるが如し。決して然かるにあ

社 會 問 題

社 會 問 題

らず。愛蘭の地主制度は英國の地主制度より有害あるに非ず。蘇格蘭の地主制度より有害あるにあらす。米國の地主制度より有害あるにあらす。又た愛蘭の地主は他國の地主より苛酷あるにあらす。地主は一般に教育あり、安逸に慣るゝの人もなきが故に其の小作人に對するや、下受百性が稼（カセギ）人に對するが如く吝嗇あらす。唯だ彼等は土地を自家の所有とあし。之れを以て歳入を得んと欲す。而して留守居にして歳入を集むることの最も多きものを以て最も善き留守居とあすに過ぎず。

バルチル、サリヴァンの如き聲望ある愛蘭の首領は米國に來り、愛蘭の封建的地主に就て嘲々するあり。然れども是れ虚言のみ、——愛蘭の地主制度は米國の地主制度に異なる所あり。唯だ彼等は愛蘭の地主を排斥して米國の地主に惡

弊を積載し去る



社 會 問 題

感情を生ぜざらしめんと欲し。此の工夫に出づるに過ぎざ  
 るあり。愛蘭には封建的地主と稱すべきものあり。愛蘭の地  
 主が握る所の總ての實權、愛蘭の地主が逞ふする所の總て  
 の專制權は其の土地の持主たるより出で来るあり。法律上  
 土地を以て彼れが所有とあすより出で来るあり。愛蘭の地  
 主制度が英國の地主制度より有害あるが如く見ゆるある  
 は愛蘭の工業系の尙ほ幼稚にして掠奪者と被掠奪者との  
 間に人の介立する少數あるが故のみ。又た英、愛、兩國の地主  
 制度が米國の地主制度より有害あるが如く見ゆるは米國  
 の新開國にして其の土地未だ牆壁の裏に在らざるが故の  
 み。然れども、今日日本國に於けるよりも更らに廣大なる領地  
 を米國に於て得んとするの『殿様御前』が他日米國の地主と  
 ありて彼處に於けるよりも更らに強大なる實權を此處に

社 會 問 題

掌握するに至るは理數の免ぬかれざる所あり。  
 近時愛蘭に於ける立法の精神は地主が小作人に對するの  
 實權を減殺せんとするに在り。合衆國に於ては乃ち然らず。  
 地主は自己の所有地に對して自己の欲する所を行ふべき  
 無限の實權を握れり。米國の借地法は誅求、苛征を以て尋常  
 一般のことにあせり。地主が小作人に對して取上權を專行  
 し、地方の救恤官に報告せずして立退を命ずるの日は遠き  
 にあらざるべし。地主が除かんとする小作人は最少の費用  
 を以て之を除くことを得べきあり。

「ツリヒューン」新聞の『康衢徘徊之人』は左の記事を載せたり。  
 ゲドニー判事の曰く。余は本月一日を以て貧乏ある借家  
 人に對して二百五十通以上の立退令狀を發せり。粗末に  
 して雑多ある借家、軒を列べて余が管轄區内に在り。日々

塵芥を積載し去る



社 會 問 題

此の不快ある仕事の腐集するには殆んど閉口せり五月一日は斯る仕事の秋あり、平時に在ても毎月、月の始めには少くも一通の令状を發す。瑣細ある不如意の事に怨み嘆ちを言ふものを區裁判所に引張り來りて此の有様を見せたらんには善き藥とあるへし。蓋し極點の慘狀は此處に顯はるゝを以てあり。然れども此の極點の慘狀に陥るは懶惰、放蕩の故にあらずして、不幸の故あり。手に腫物を生じて稼く能はず。其の貯金は盡き、其の衣類、雜具は質屋に典し盡したるの後、其の子は病に罹り、其の妻は死亡す。歐羅巴に在て遊樂するの家主は差配人に訓令を下して家賃を督促せしめ、拂はざれば直ちに立退令状を交附せしむ。

余は曩日、嚴寒の夜ペンシルヴァニア州のウイルクスパー

社 會 問 題

市に一人の女が三人の子供を伴ひ、飢へ且つ凍へて空地の空樽中に假臥したるを新聞紙にて讀めり、其の話は誠に簡單あり。其の夫は職を失ひ、盗まんとして牢に入れられ。家賃を拂はずして家主に立退を命せられ、唯一の庇所として空樽に臥したるあり。愛蘭の民情は悲慘ありと雖とも尙ほ救恤官のあるあり斯る不幸の者は之れを貧民院に入らしむるあり。

英政府の二三弗を添へて吾か埠頭に投棄する愛蘭の男女は米國に在て本國に於けるよりも自由に天與の物に近接し得る歟。彼等若し地理を諳し。且つ之れに達するの力あり遠く遠西の地に往けは乃ち天與の物に近接するを得へきあり。然れども、紐育附近には縦令ひ土地ありと雖とも、既に他人の所有に歸せり。故に彼等にして若しも得意の職業

業を積載し去る



社 會 問 題

に就くを得たりとするも彼等は本國に於けるか如く米國に於ても其の儲くる所の幾分を以て職業に就くの免許料とあし。土地に棲息するの免許料とあし。之れを他人に輸せざる可からず。然れども彼等は本國に於けるよりも好都合あるへし。何とあれば米國は新開の國にして、百年前に在ては殖民は此の曠漠ある大陸の東方海岸に散在するに過ぎさりしを以てあり。然れども、大西洋より大平洋に至るまで、吾人既に塵芥の堆積せんとするを見る。今ま之れに加ふるに愛蘭よりずるの塵芥を以てせば將に積聚して山を成さんとす。到る處、既に無頼、浮浪の徒あきはあし。慈善會の報告に依れば、紐育には既に二十五萬の無頼漢ありて慈善に衣食せりと云ふ。嗚呼、吾人は數年の後何處に向て塵溜場を求めんとする歟。誰か人類的の塵芥に投票の權を與へて米國

社 會 問 題

の危急を救はんと唱道するものぞ



第十二章 生産の過剰

何の點より見るも、一國の禍患、政府の腐敗は佛蘭西の國民會が宣言したるが如く、人權の淪没、諛棄、輕蔑より出で來るを知るあり。

生産の過剰ありとは人の喋々して止まざる所に於て、商業の沈靜あるも其の原因を之れに歸し、職人に職業なきも其の原因を之れに歸す。試みに此の『生産過剰』の何物たるやを考察せよ。生産過剰ありと斷言するの笑ふべきに至るを知るべし。滔々たる天下富を争ふて止まず而かも尙ほ生産過剰ありと謂ふを得る歟。生活せんと欲して齷齪、煩惱する者多し。而かも尙ほ生産過剰ありと謂ふを得る歟。貧窮に苦しむの民多し。而かも尙ほ生産過剰ありと謂ふを得る歟。富を得んとするの願望總て酬ひ、天下復た一人の富を要するを得んことを昭然たるにあらすや。

社 會 問 題

社 會 問 題

の○あ○き○に○至○ら○ざ○れ○ば○概○括○に○絶○對○に○生○産○過○剰○あ○り○と○謂○ふ○を○得○ざ○る○こ○と○昭○然○た○る○に○あ○ら○す○や○。侍○對○上○の○生○産○過○剰○は○固○よ○り○之○れ○あ○ら○ん○。一○物○品○の○生○産○比○例○上○非○常○に○超○過○し○爲○め○に○之○れ○を○他○の○物○品○と○交○換○し○盡○す○能○は○ず○。之○れ○を○市○場○に○致○す○ま○で○に○消○費○し○た○る○勞○力○と○資○本○に○尋○常○の○報○酬○を○與○ふ○能○は○ざ○る○と○之○れ○あ○り○。然○ど○も○此○の○待○對○上○の○生○産○過○剰○は○唯○だ○生○産○の○不○比○例○に○過○ぎ○ず○。一○種○の○物○品○を○生○産○す○る○こ○と○平○常○よ○り○多○き○か○若○く○は○一○種○の○物○品○を○生○産○す○る○こ○と○平○常○よ○り○少○あ○き○と○き○は○則○ち○此○の○生○産○の○不○比○例○を○來○す○ま○り○。

例へば吾人が時計の生産過剰ありと謂ふ時の如し。時計の生産過剰とは時計を生産すること人の之れを所望するよりも多しとの謂にあらずして、時計を生産すること相當代



社 會 問 題

價を以て賣捌き得るより多しと謂ふに過ぎず。故に全く待  
 對上のことあり。而して此の待對上の生産過剰は時計の生  
 産多くして時計を購買するの力に超過したるより生ずる  
 ことあり。又た他物の生産少ふして時計の購買力を弱から  
 しむるより生ずることあり。時計の生産増額するに應じて  
 他の物品の生産にも亦た増額あり。彼此相ひ交換するを得  
 ば時計の生産は如何程多きも世間所望の限界を超過せず  
 隨て時計生産の過剰あるを見ざるあり。又た時計の生産は  
 依然たるも他の物品の生産減額し。彼此相ひ交換する能は  
 ざるに至れば、待對上時計生産の過剰を見るに至るべきあ  
 り。

之を要するに、苟も人類の願望の存續して消滅せざる限り  
 は、一物品の生産過剰は唯だ他の物品の生産に待對して生

社 會 問 題

ずるものに外ならず。故に生産の過剰は一科の工業の生産  
 不釣合に増加するより生ずることあり。又た一科の生産の  
 斷絶するより生ずるとあり。是を以て生産過剰の顯象一は  
 直に生産を増加するの原因より發し、一は直ちに生産を斷  
 絶するの原因より發す。而して此の二個相ひ反するの原因  
 は或る限界の中に在て、或る程度までは同一の効果即ち生  
 産の過剰を生ずると雖も、廣く一般に涉りては大ひに相ひ  
 反するの効果を生ずるあり。即ち或る一科の工業に生産の  
 増加を來せば、他の生産に一般の増加を來し、或る科の工業  
 の生産に斷絶を來せば、他の生産にも亦た斷絶を來すの傾  
 向あるあり。

是れ同一科の工業に於て生産の加増と減少とにより生ず  
 る一般の効果が前後全く相ひ反するを以て知るべきあり。



社 會 問 題

試みに新鑛山の發見、機械の改良、生産を減少せんとする同  
 盟の解約、若くは或る他の原因に由りて他の物品の生産と  
 比例を有たずして獨り石炭の産額遽かに増加したりと假  
 定せよ。自由の市場に在ては石炭の相場爲に下落すべし。此  
 の効果として石炭の消費者は石炭を消費すること稍々多  
 かるべく、他の物品を消費することも稍々多かるべく。直接、  
 若くは間接に石炭を用ゆる總ての工業は、生産費の幾分を  
 省くことを得て生産を鼓舞すべし。斯の如くんば石炭の生  
 産過剰あるより生ずる一般の効果は生産を増加し。且つ以  
 て總体の生産を増加し。石炭の生産と他の物品の生産との  
 間に平均を恢復せんとするの傾向を生ずべし。  
 今ま之れに反し、石炭業者と石炭組合が其の慣手段に訴へ  
 相場を騰貴せしめんと欲して石炭の生産を停止し、若しく

社 會 問 題

は其の産額を減少せりと假定せよ。石炭の生産に従事し居  
 たる數多の職人は忽ち其の購買力を失ひ、若くは之れを減  
 少するあり。斯の如くんば彼等が習用し來りたる物品の需  
 用を斷絶して、他の科の工業に於ける需用と生産を減少し  
 隨て他の物品の消費者も其の需用を減少するを見ん。而し  
 て之れと同時に石炭の相場は騰貴し。石炭を用ゆる各科の  
 工業は生産費を増加し。且つ石炭を用ゆる額を減ずると  
 同時に石炭を用ゆるに由て始めて需用を生ずるの物品は  
 其の需用を減少すべし。斯の如くんば石炭生産の斷絶は各  
 科の工業に涉りて其の産額を減少せしめ。而して石炭の産  
 額、他の物品の産額と相ひ平均するまでは各科の工業皆あ  
 其の生産を減額するに至るべきあり。  
 總ての商業は物品と物品とを交換するにありて、金銭は唯



社 會 問 題

た。價。直。の。標。準。と。あ。り。て。便。利。に。儉。約。に。此。の。交。換。を。行。は。し。む。  
 る。の。道。具。に。過。ぎ。ざ。る。こ。と。を。忘。る。可。か。ら。ず。需。用。—— 希。望。と。  
 は。別。物。あ。り。需。用。に。は。購。買。力。を。も。含。有。す。る。を。以。て。あ。り。  
 と。は。彼。此。價。直。を。同。ふ。る。此。の。物。を。以。て。彼。の。物。と。交。換。す。る。の。  
 謂。あ。り。供。給。と。は。彼。此。價。直。の。同。し。き。此。の。物。を。以。て。彼。の。物。と。  
 交。換。せ。ん。と。し。て。之。れ。を。提。供。す。る。の。謂。あ。り。此。の。故。に。需。用。あ。  
 れ。バ。則。ち。是。は。供。給。あ。り。供。給。あ。れ。バ。則。ち。是。は。需。用。あ。る。あ。り。  
 荷。く。も。彼。此。相。ひ。交。換。せ。ん。と。し。て。提。供。す。る。の。物。品。其。の。額。を。  
 増。加。す。る。あ。れ。は。則。ち。是。れ。供。給。を。増。し。需。用。を。加。ふ。る。所。以。あ。  
 り。之。れ。に。反。し。荷。く。も。物。品。の。市。場。に。出。づ。る。者。を。遮。斷。す。る。は。  
 是。れ。供。給。を。減。じ。需。用。を。減。ず。る。所。以。あ。り。  
 斯。の。如。く。ん。バ。特。種。の。物。品。若。く。は。數。種。の。物。品。に。於。け。る。供。給。  
 需。用。上。に。生。ず。る。一。増。一。減。は。其。の。供。給。多。き。よ。り。生。ず。る。効。果。

社 會 問 題

と。其。の。供。給。の。少。き。よ。り。生。ず。る。効。果。と。は。其。に。齊。し。く。生。産。の。  
 過。剩。を。生。ず。べ。し。と。雖。も。其。の。供。給。の。多。き。よ。り。生。ず。る。と。き。  
 は。他。の。物。品。の。供。給。を。促。が。し。全。体。の。需。用。を。増。し。以。て。一。般。に。  
 商。賣。の。繁。昌。を。致。す。べ。く。其。の。供。給。の。少。あ。き。よ。り。生。ず。る。と。き。  
 は。需。用。を。減。じ。供。給。を。減。し。以。て。商。業。の。沈。靜。を。來。す。べ。く。之。れ。  
 を。一。般。の。効。果。に。視。る。と。き。は。大。ひ。に。相。ひ。異。あ。る。を。見。る。へ。き。  
 あり。豊。年。若。く。は。農。業。上。の。改。良。に。由。り。他。の。工。産。に。比。し。て。農。  
 産。の。相。場。下。落。す。る。か。若。く。は。工。業。上。の。生。産。減。少。し。又。は。其。の。  
 交。換。の。道。の。斷。絶。し。た。る。に。由。り。農。産。に。比。し。て。工。産。の。相。場。騰。  
 貴。す。る。と。き。は。農。産。と。工。産。と。の。間。に。於。け。る。供。給。需。用。の。方。程。  
 式。の。變。動。す。る。を。見。る。べ。き。あり。此。の。時。に。當。り。て。荷。く。も。農。産。  
 の。増。加。す。る。あ。れ。は。則。ち。其。の。増。加。は。能。く。一。般。の。生。産。を。鼓。舞。  
 して。之。を。増。加。せ。し。め。荷。し。く。も。製。造。品。の。生。産。増。加。す。る。あ。れ。



社 會 問 題

は則ち其の増加は製造業に従事する者に農産を需用するの力を與へて其の影響を農産の上に及ぼし。之れか供給を促かすに至るあり。今ま之れに反し工産の減少したる場合に在ては、製造品の相場忽ち騰貴するを以て農夫は竟に工産を購求するの力あし。而して農夫の需用一たひ減せは製造に従事する者亦た農産を購求するの力を失ふ。而して其の影響は之れを工産の上に及ぼし。以て一般に其の需用を減するに至るあり。是に於て乎、商賣は沈靜し、百般の生産は斷絶す。今ま年凶にして、米穀の價は貴しと雖とも、農夫は苦み。年豊にして米穀の價は低しと雖とも農夫は樂む。收穫の豊凶より生ずる一般の結果前後大ひに相ひ異なるを視て余か論の誣ひざるを知るべきあり。

之れを約言せば待對上生産の過剰は生産の増加するに因

社 會 問 題

り若くは之れを減少するに因りて生ずべきあり。而して一科の工業に於ける生産の増加は總て他の生産を増加せんとするの傾向あり。即ち商業を鼓舞して一般の繁昌を致し以て生産の過不及より生ずる不平均を恢復す。之れ反し一科の工業に於ける生産の減少は一般に他の生産を減少するの傾向あり。商業を不景氣にし、一般の疲弊を來さんとする。蓋し一科の工業上に於ける生産の斷絶は轉輾して百科の工業上に於ける生産を斷絶し。一科の生産に従ふものをし。て他の一科の生産を需用するの力あからしめ。以て此の疲弊を波及すること普ねく且つ久しからんとす。

人苟くも生産過剰より生ずる顯象の廣大あるものを考察せば其の發生する所、生産の減少より生ずる歟、生産の増加より生ずる歟。兩原因の中其の孰より生ずるかを知るに難からざ



社 會 問 題

る。あり。今や全世界に於ける所謂る生産の過剰は生産の過剰より來らずして生産の制限、生産の絶息より來るを知る。あり。而して直接若くは間接に生産を制限する者少とせず。蓋し生産とは物を造るの外、物を運搬し、物を交換するの謂あることを忘る可からず。故に商業若くは商業上の機關に制限を加へて其の生産を沮喪するときは農工業の上に制限を加ふるに異ならず。我が外國貿易を妨げ他國の生産と本國の生産との自由交換を制限せんとして保存するの關稅は生産に制限を加ふるものに外ならず。吾人が之を生ぜしめて、而して之れを長せしめ、以て内國貿易に關稅を課せしめ、或は同盟、連合して供給を減じ、故らに相場を騰貴せしむるの專賣權は生産に制限を加ふる者に外ならず。一定の製造者に課稅する我が内國稅法も亦た直に生産に制限を

加ふる者に外ならずあり。

社 會 問 題

註 酒稅、煙草稅を是認すべき理由の他に存するや否やは茲に之を論ずるの必要ありと雖ども、此の論點に就てアダム、スミツスが論ずる所は之れを抄録するの價直ありと信ず。曰く、經驗に徴するに酒價の廉あるは酩酊の原因にあらずして、却て醒覺の原因あり。歐洲最醒の人は一般に酒泉國の人あり。西班牙、以多利、佛蘭南方の人を看よ。日々飲料の度を過すものは稀れあり。酒の湧くこと泉の如しと雖ども、之れが爲めに其の寛仁、親愛の徳を失ふものあらず。之れに反し、氣候順あらずして葡萄を産せず。酒の乏しく且つ貴きこと歐洲北部の如く、熱帶地方の如きに在ては——例へばギニ、海濱の黒奴の如く——酩酊は尋常の失徳とされり。佛蘭西の兵、酒價の貴き北方よ

生産の過剰



## 社 會 問 題

り酒價の最も卑き南方に來るや、始めは其の酒の口に  
適するを以て暴酔せりと雖ども、二三ヶ月を出でずして  
兵卒の清醒ある土着の人に異あるを見ず。英國若し外國  
輸入酒税を撤去し、麴、麥酒、「エール」の内國税を廢せば、中等、  
下等の民は一時一般に暴飲、爛酔すべしと雖も遠からず  
して全く清醒の人たるべし。今日に於るも上流社會の人  
若くは容易に高價の酒を沽ひ得るの人は却て暴飲爛酔  
の失徳あり。吾人は縉紳の爛酔したるを見ざるあり。加之  
あらず、英國政府は葡萄酒營業者を檢束せりと雖ども其  
の民が銘酒屋に入の多きは芳香にして廉價ある「リキエ」  
酒を買ふの人よりも多し。(Wealth of Nation, Book IV, chap. III.)  
聯邦政府が國税として課するよりも多額ある吾が州、郡、市、  
が賦課するの直税は大ひに生産を沮喪す。此の直税は同一

## 社 會 問 題

の税率を以て一般に動産不動産に課するものあるか故に  
幾分は生産の結果にあらざる土地より徵收し。幾分は生産  
の結果ある物品より徵收するあり。即ち斯の如くして、獨り  
家屋、建物、土地の改良に課税するのみならず、宅地、改良地に  
課するの税率は其の嘗て使用せざる同質の土地に課税す  
るの税率よりも一般に高きが故に其の性質は本來地價に  
課するものありと雖ども、亦た大ひに生産の障害たるを免  
ぬかれざるあり。

註 是れ必竟財産に課税するは財産より生ずる所得の  
多少を標準として賦課すべしと云ふ廣く行はれて而か  
も全く誤謬ある考案より出でたるあり。英國の如きは之  
れを實行するの甚しき使用せざるの土地は縦令ひ如何  
程の價直あるも免稅せらるゝに至る、笑ふ可きにあらず



社 會 問 題

斯の如んばは是れ物品を生産し土地を改良するものを刑罰に處する者あり吾人が富を産し富を積む者遇するの法は殆んど一國の政策上許すべからざるを行ひたる者を遇するが如し家屋を築くもの汽船を造るもの製造場を建つるものあらんか税吏忽ち門に到りて之れに過代を課す農夫不作の地に入り之れを耘り之れを耕し之れに五穀を生せしめ若くは之れに六畜を養へば社會は之れに其の富を増すの過代を拂はしむるのみならず斯る事業を爲すものを懲戒せんとして大ひに其の地價に向て課税し而して他の之れを荒蕪に委するものは措て問はざるあり且つ夫れ人あり富を貯蓄せば我が税吏は其の勤儉ありしを罰す斯の如くんば各種の生産豈に阻害せられさらんや猶ほ

是より甚しきものあり吾人は更らに大ひに生産を阻害せんとす。

社 會 問 題

宇宙に大智大能を有するものあり吾が顯微鏡學者が一滴水中の微生物を檢するが如く顯微鏡を手にして世界無限の不可思議を檢し來り吾が國に於けるが如き人口分配の奇狀を目撃せしめば彼れ必ず之れに對して呆然たること久からん都會に在ては人類は相ひ填塞し相ひ積堆して在り而して田舎に在ては人煙の稀薄ある寂寥無人の郷を望むか如し他の福地の多く荒廢に歸するに拘らず更らに市府の郊外に家屋の築造せらるゝを見るへし人は耕作すへき土地を去り耕作すへからざる遼遠の地に赴きて之れを開拓するを見るへし而して此の大能者か一種の顯微鏡に照して吾人人類に於ける殖民の奇狀を檢するときは彼



れ必らず殖民するもの、大半は互ひに相ひ密着せず、荒蕪の地を中間に置ひて互ひに相ひ離隔するを見るへし。若し宇宙に學士社會あり、其の吾人に於ける尙ほ吾か學者先生か蟻と微生蟲に於けるか如くおれは此等の顯象は彼等の間に限りなく奇々怪々の論理を生すへきあり。

試みに空船に乗して紐育府を下瞰すると想像せよ。家屋は天上に向て隆起する見るあり——一層樓、十二層樓、十五層樓一層民の上に又た一層民、一家族の上に又た一家族、水に乏しく、光線、空氣に乏しく、庭園なく、寸隙の地あり。家屋の建て塞りて街衢の狭きこと猶ほ瓦磚、石灰の大塊に龜裂あるが如し新街衢に在ては一方の借家は一方の街衢に面し、一方の借家は一方の街衢に面し、背後に三間餘の空地あり。恰も兩屋間の破隙の如く然り。満月空に懸るの夜、光線の曲折

社 會 問 題

社 會 問 題

し來りて窓に映するを見るのみ。而かも市の四邊、市の中央に空地多く、市の朱引線内、家屋を建てざるの地、實に半に過く而して峻乎たる借家の四邊、空地あり之れ匪繞するを見るあり。吾人若し吾が顯微鏡を改良して他の遊星を望み、大湖の水、風に激して起伏、波をあさず。唯だ處々に巨大ある水柱の時つあるを見れば吾人は怪訝に禁へざるあり。別世界の誰か吾が市府の斯の如きを見て驚かざるものあらんや。彼等は恠んで問ふあらん。彼等は層々人の上に人を置き。重々屋の上に屋を架す。彼等若し人口の過密あるを憂へば何爲ぞ空地に向て家屋を築かざる歟。彼等は止むを得ざるの事情ありて爾かする能はざらん。然れども、其の事情は如何。余は奇恠に禁へざるあり。

南洋の波間に一孤島あり。島の俗、酋長一地、一物に向て之れ



社 會 問 題

を呪せば土蕃は敢て之れを用ひず。之れに觸れざるあり。彼等は數里の外を迂回するも寧ろ所呪の地を踏まざるあり。彼等は渴死するも寧ろ所呪の泉を飲まざるあり。彼等は飢死するも寧ろ所呪の林中に仁實を摘せざるあり。此の南洋の一島人に向て忽ち吾が空地を見せしめば彼等は之れを所呪の地と言はん。而して彼等の言ふ所、決して事情に背かざるあり。蓋し此の空地は『私有財産』既得權と稱する忘信に一呪せられて存するを以てあり。

唯だ無形の鐵柵あり。其の障ふる所とありて徒らに屋上に屋を架し而して市街の擴張を見ざるあり。無形の鐵柵とは何ぞ其價の騰貴是あり。地價は人口の蕃殖して土地の需用多きに隨ふて騰貴す。故に土地の需用愈々切にして其の使用を妨ぐるの鐵柵は愈々高し。借家は空地の傍に聳へ。屋上に

社 會 問 題

に屋を架す。蓋し地價の貴きが故に資本の薄きものは其の使用を節せざるを得ざればあり。

都會の地價は都會の繁盛に應じて騰貴するのみならず、繁盛の見込を以て騰貴す。而して其の騰貴は建築改良の妨害とある。然れども其の影響に至ては都鄙稍々其の趣きを異にせり。都會に在ては人口の過密を致し、邊地に在ては人口の過疎を致す。地價の騰貴に利せんとする人は自ら用ゆるに非らず。之れを不作に委するも可あり。唯だ大ひに之れを買占め以て他日需用の切に地價の大ひに騰貴するを待て忽ち之れを利せんとするあり。是を以て人口は離散す。人口離散せば彼の隣保相ひ倚るに由て始めて生ずるの快樂、雅趣、精勵は擧げて之を亡するのみならず、生産の力も亦た併せて之れを削弱するに至るあり。道路、堤防、橋梁を築造、修繕



社 會 問 題

するの費、産物、貨物を遠く運搬するの費、隔絶の故を以て近世の農工事業に必要ある貿易を行ふの困難は大いに生産を遅鈍ならしめ、生産を削減するを免ぬかれざるあり。大都會の内外に在ては地價の貴きが故に家屋を建築するの難きに反し、農業地に在ては地價の貴きが故に土地を改良するを難し。土地愈々貴ふして農夫が之れを買ふの資本は愈々多きを要す。農夫之れを買はざれば年々其の所得より出すの地料は愈々多からざるを得ず。容易に土地を求むるを得ば熱心に之れを改良し、之れを耕作せんとするの人も然るを得ざるが故に去て他に向ひ——處々に彷徨して好機會を求め、其の間遂に其の資を盡し、轉じて職人たらんと欲して求職者の伍に入り、都會若しくは製造地に出づ。然らずんば永く無職の人となり、時として其の徳を紊り、竟に

社 會 問 題

浮浪無頼の徒とある。斯の如くにして凡百生産の基礎たる農業に生産の澁滯を來すあり。而して一種の生産に於ける澁滯は他の生産の需用を削減し、他の生産に於ける需用削減して其の影響は轉輾百般の生産に及び、竟に吾人が生産過剰の項下に詳論したるが如き顯象を生ずべし。何とあれば則ち生産の過剰は素と生産の削減に出づるを以てあり。夫れ然り、地價は人口と富の増加に應じて騰貴するのみならず、其の増加せんとするの見込あるに由りて騰貴するか故に人口と富の増加特に駿速あるに當りては地價忽ち騰貴し、生産に従ふの勞力、資本をして報酬、利潤をきに至らしむるとあり。而して此の騰貴を抑ゆるの道は忽ち勞力、資本を收めて一時生産を中止するにあるのみ。而して此の事往



社 會 問 題

をにして行はる。其の行はるゝの時に當れば起業熱は一た  
 ひ高く昇り。而して竟に忽ち一般に生産の中絶を來すあり。  
 生産の中絶一たひ來りて(需用の中絶に由りて)其の波動百  
 般の工業に及びひ以て激裂ある變動を生ず。之れを商工業上  
 の沈靜と云ひ。又た不景氣と云ふ。不氣景の兆一たひ發する  
 や。資本は庫裏に在れども用ゆる所なく。職人は手を空ふす  
 れども其の勞力を備ふ者なく。物産は倉中に山積すれども  
 之れを賣て利する能はず。而して欠乏と苦痛は天下に普ね  
 し。今ま夫れ生産力の自由發作を妨害して此の商工業上に  
 一大頓挫を生し之れを長し、且つ續づくるの原因は一にし  
 て足らざるへじと雖も、其の原因中に在て最も重大ある  
 ものは吾人が上來論究し來りたるの原因に外あらざるを  
 信するあり。

社 會 問 題

試みに之れを證明すべし。商工業上の變亂は素と如何ある  
 原因より來るにもせよ。此の時々の不景氣の生ずるありて  
 需用供給の相ひ應じ相ひ補ふ能はざるが如きに至るは自  
 由に生産力を土地に加ふる能はざるに坐する者あるが故  
 に生産力にして苟くも自由に土地に近付くを得ば此の不  
 景氣は決して普及し且つ持久する能はざるあり。此の自然  
 の安全管にして開くるあれば資本、勞力の凝結は普及し。且  
 つ持続する能はざるあり。一個の工業に一時比較的の生産  
 過剩を生ずるあれば忽ち其の資本、勞力を轉じて之れを土  
 地より富を取るの事業に用ゆ。豈に其の救はざるを憂ひん  
 や。  
 此の如くあれ。吾人が不景氣と稱し。萎靡不振と稱する。公  
 共の災禍、——其の激越あるに至ては大戰亂よりも甚しき

生産の過剩



損害、苦痛を生ずる公共の災禍は實に人權の蹂躪、蔑如より生ずるとを知るあり。人々が其の需用に紛せんとして自由に天然の物に臨み而して其の勞力の結果を存して之を私用するの平等、不可移權を慢侮するより生ずるを知るあり。

社會問題前篇畢

明治廿五年四月廿日印刷  
同廿五年四月廿三日出版

(定價四拾錢)(郵稅四錢)

發行者 東京市赤坂區仲之町拾三番地寄留  
奈良縣士族 江口三



印刷者 東京市芝區田村町六番地寄留  
高知縣平民 田中福馬

發行所 東京市京橋區尾張町新地一番地

自由社

印刷所 東京市京橋區尾張町新地拾八番地 岩田印刷所





大 賣 捌 所

東京市京橋區銀座四丁目

博 聞 社

東京市日本橋區本町三丁目

金 港 堂

東京市日本橋區通三丁目

丸 善 商 社 書 店

東京市日本橋區通一丁目

大 倉 書 店

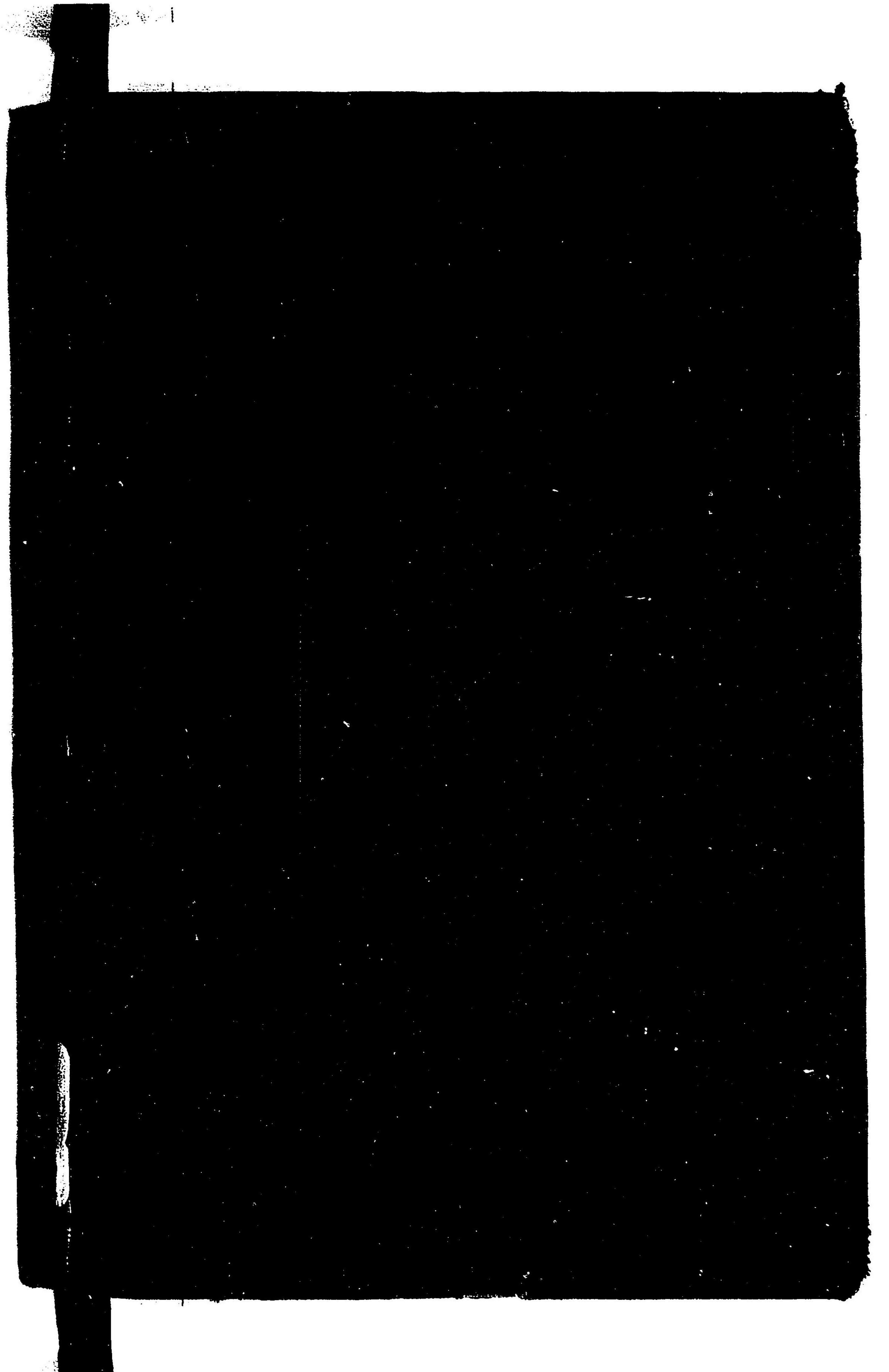
東京市日本橋區馬喰町二丁目

石 川 商 店



68  
231







68  
231

Ⓜ

039798-000-4

68-231

社会問題

ヘンリー・ジョージ/著

M25.4

BDB-0074





